

学校教育目標	みんなで作る わくわくがあふれる野田小学校 ～すべての子どもが、自ら、自分らしく学び、生き生きと育つ学校～
目指す学校像	自ら とともに 挑戦する

重点目標	1 児童における学習の基礎的・基本的事項の定着及び「自ら学ぶ」授業の創造 2 安心・安全な学校づくりに自ら取り組む児童の育成と教育相談体制の充実 3 学校・家庭・地域が連携して「学校教育目標」の具現化に向け協働する 4 Well-Beingの実現に向けた業務改善の推進と教職員の資質・能力の向上を図る研修の充実
------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標			年度評価				実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	●子どもを主語にした教育活動の展開 ・本校の児童については、豊かな自然環境の中で、子どもらしさにあふれ、他学年の児童どうしで仲よく遊んだり、関わり合いをもったりできる子が多い。 ・学習面においては、与えられた課題については積極的に取り組める子は多いが、自ら課題を見出し、試行錯誤しながら解決に向けて取り組む面については課題が見られる。 ・学習の基礎・基本の定着については、ICTを有効活用しながら、個に応じた指導・支援を行っていくことが必要である。 ・児童が「教わる」授業形態から児童が「自ら学ぶ」授業への改善を継続していく必要がある。	・児童の基礎的・基本的事項の定着	・基礎学力の定着に向け、(国語)詩の暗唱チャレンジ、スピーチ発表、(算数)2分間チャレンジ、を実施する。 ・月末に各取組を振り返り、改善を図る。 ・授業の中に「自ら学ぶ」機会を設け、個別最適化した学びを具現化する授業を創造する。	・月1回の暗唱チャレンジ朝会で、毎回1篇以上達成の児童が80%以上になったか。 ・2分間チャレンジについて、90%の児童が自己ベストを更新できたか。 ・学校評価(児童)「自分で計画を立てて学習に取り組んでいる」の肯定的回答が90%以上になったか。				
		・児童が「自ら学ぶ」授業への改善	・教職員が1人1授業研究を行い、児童が「自ら学ぶ」授業の実践研究を行う。 ・ICTを効果的に活用し、デジタルとリアルを融合させた授業づくりを行う。 ・野田小学校の地域を生かした自然体験活動に全学年が取り組む。	・一人ひとりの教職員が年間1回以上の授業公開に主体的に取り組む、授業改善の意識を高めることができたか。 ・学びの指標「自分の考えを表現したり共有したりするときに、学習ソフトを使っている」の肯定的回答が90%以上になったか。				
2	●「喜んで登校し満足して下校」できる学級・学校の実現 ・教職員は、児童一人ひとりの状況を的確に把握し、個に応じた指導や支援を行っている。 ・教育相談や生徒指導に係る事案に対しては、全教職員が自分事として捉え、組織的に支援・相談していく体制や仕組み作りをより充実させていく必要がある。 ・校内やクラスでの解決すべき課題について、子どもたちがその課題や問題について、自分事として捉え、解決に向け自ら行動する力を育むことが課題である。	・安心・安全な学校生活の実現に取り組む児童の育成	・「安心・安全で楽しい学校づくり」の構築に向け、学校行事や児童会活動、学級活動等の取組を通して、児童自身が主体的に取り組む機会を創造し、課題の解決に取り組めるようにする。	・学校評価(児童)「学校生活や登下校で安全のルールを守っています」の肯定的回答が95%以上になっているか。 ・学校評価(保護者)「野田小の子は、学校における安全や交通安全を考えて行動している」の肯定的回答が90%以上になったか。				
		・一人ひとりに寄り添った、生徒指導・教育相談体制の充実	・教育相談室「野田っ子窓口」を定期的に運用し、児童が休み時間等に安心して相談できる環境を整える。 ・スクールダッシュボード「おはようメーター」を活用して、児童の状況を把握し、対応するとともに記録を蓄積して支援に結び付けていく。	・学校評価(児童)「困った時に先生やおうちの人にお話しています。」の肯定的回答が90%以上になったか。 ・スクールダッシュボードを活用し、児童の状況を把握し、適切な対応をすることができたか。				
3	●学校運営協議会、PTAと一枕岩となった学校経営の実現 ・学校での取り組みについては、「学校だより」「学んだより」「ブログ」等を活用し、家庭や地域に向けての情報発信を積極的に行うことができている。 ・学校・家庭・地域が一体となり、子どもたちの教育活動を行うことができるよう、学校教育目標「みんなで作る わくわくがあふれる野田小学校」をスローガンに推進している。 ・地域の人材が高齢化とともに縮小していく傾向があり、「地域とともにある学校づくり」に向けた地域人材の登用や活用を積極的に行う必要がある。	・学校、家庭、地域が連携した教育活動の実施	・家庭、地域に向け、学校安心メールでは、的確で迅速な情報の発信を行い、学校WEBページやスクリーン配信などでは定期的に情報更新を行う。 ・児童会の代表が学校運営協議会に参加し、野田小学校の課題と解決に向けた取組に向け発表等を行う。	・教職員が、家庭や地域、関係園の職員等と関わり合う機会や関係づくりができたか。 ・学校評価において、学校からの情報発信に係る項目の肯定的回答の割合が増加しているか。				
		・学校、家庭、地域が一体となって子どもたちをはぐくむ体制の充実	・地域の人材や物的資源を有効に活用した教育活動を行う。 ・児童の登下校の安全確保に向け、運営委員のそれぞれの役割で実現が可能な取組を提案したり実践したりする。	・学校の課題の解決に向け、各家庭への啓発や協力依頼について、PTAと協議し、協働することができたか。 ・学校運営協議会の熟議における取り組み内容がそれぞれの役割の中で効果的に実践できたか。				
4	●安全、清潔、静謐な教育環境の創出 ・校内の安全な環境の確保と維持については、廊下や階段などに不要なものは置かないことの徹底が継続されており、児童が落ち着いて学習に取り組むことができる環境が構築されている。 ・清掃活動については、児童数が少なく、校内各所で手が回りきらない。清掃用具等を充実させ、少ない人数でも効率よく清掃活動ができるようにすることが課題である。	・教育環境の整備・充実による、安心・安全な教育環境の実現	・整備された環境を維持するための清掃活動や啓発の方法について環境委員会と連携し、見直しや改善を図る。 ・教材教具の充実に向け、全職員による備品等の点検・整理を行う。	・学校評価(保護者)「教室や特別教室の清掃が行き届いている。教室等の掲示物や学校の施設・設備が整備されている」の肯定的回答が95%以上となったか。 ・備品の点検・整備作業を通して、学校環境が整備された状況を実現できたか。				
		・「てきぱき・もくもく・すみずみ」の意識と実践力の育成	・「時間」と「効果」を意識した清掃活動の実践を通して、効率よく清掃を行う力を育成する。	・学校評価(児童)「仕事や掃除などを一生懸命にしています」の肯定的回答が95%以上になったか。 ・清掃用具の補充整備等、充実できたか。				
5	●「喜んで出勤し、満足して退勤」する教職員組織の確立 ・学校行事や校内研修等に対する教職員の参画意識は大変高く、同じベクトルで物事を進める力があり、また、研修の効果も高い。 ・学校課題研修等を通して、子どもたち一人ひとりが生き生きと学ぶための手立てについて実践と共有が図られてきた。 ・小規模校であるため、校務分掌等、教職員一人ひとりの業務に係る負担が大きい。	・業務改善の推進と同僚性の向上	・「野田小グッジョブ推進プロジェクト」の充実を推進する。 ・業務改善について教職員自身が当事者として考え、「働き甲斐」を感じる職場環境をつくる。	・学校行事等について、業務改善の本質を踏まえた見直しや改善ができたか。 ・教職員が「働き甲斐」を感じて職務を遂行できる職場になっているか。				
		・教職員の資質能力の向上に向けた研修の充実	・「キャリア navi」と研修受講歴を活用した対話に基づく受講奨励を行い、自身の学びを校内で共有する機会と場を設ける。 ・校内研修を通して、教職員が「やってよかった」と実感できる研究推進。	・全教職員が、自らの課題の解決や、スキルアップを図るための研修を受講し、学んだことを教育活動にアウトプットしたり、共有したりすることができたか。 ・研修において、教職員が主体的に学ぶことができたか。				